

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2772501132
法人名	社会福祉法人 池田暁明館
事業所名	グループホームポプラ東山
所在地	池田市東山町555-1 (電話) 072-753-6009
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年3月12日

【情報提供票より】(平成20年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000円	その他の経費(日額)	750円/日	
敷金	有 (300,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (400,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要 (平成20年2月10日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	回生病院、協立病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長はキリスト教の精神から、特別養護老人ホーム「ポプラ」を開設し、その2年後に認知症対応型グループホーム「ポプラ東山」が開設されました。ホームは、五月山の北側に位置し緑豊かな自然環境に恵まれ、春は桜、初夏の新緑、秋には紅葉と四季折々の風景を楽しむことができます。広い居室、落ち着いた雰囲気の明るいきりびんなどハード面も考えられ、ゆったりとした生活空間となっています。開設後まもなくは職員の離職や異動があり、利用者や家族の不安に繋がっていましたが、3年目を向かえ、理念に基づいたケアの実践が根付きつつあります。管理者は認知症ケアに優れた感性をもち、介護計画を中心に据えたケアを実践するべく、利用者の生活歴の収集とアセスメントを実施し、個別ケアに取り組んでいます。職員も意欲や向上心のある人が多く、職員と利用者とのよりよい関係が、構築し始めていることがうかがえます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回評価の改善課題は6項目ありましたが、職員の異動もあり、全ての項目が改善には至っていません。管理者の交代から3ヶ月、少しずつ取り組みが始められたところです。介護計画の作成は、利用者や家族の要望を聞き丁寧に過去の生活歴や経験を把握し記録に残し情報の共有を図り、プランに反映されることとなりました。また、東京センター方式の書式を活用し、利用者ができること、できそうな事の整理をしています。一人ひとりの過去の経験を活かした取り組みがすすめられています。玄関の鍵については、今後の課題です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者は、外部評価を職員と共に検討し質の向上へと位置づけて、自己評価を行っています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年から取り組んでいます。今後、利用者や家族、地域への開かれた施設として発展することが期待されます。会議では、①グループホームの役割②地域交流の状況③日常の取り組みや行事などの報告がされました。また、家族の要望・意見として①職員の異動や離職による馴染みの関係への不安②職場環境の件についてなどが、意見として出されました。地域包括支援センターからは①老人会や子供化意図の交流②福祉・介護職現場の離職状況などの報告がありました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	毎月便りを発行し、利用者の生活状況や行事の報告をしています。家族の来訪機会は多く、来訪時に、利用者の状況を説明し、話し合いの場を設けています。金銭管理は、個別の出納帳を作成し領収書と共に家族に送付しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	散歩の途中に地域の100円野菜市への買い物や、小・中学校との交流や地域の行事へ参加しています。地域との交流が広がる中で、地域から野菜が届くなど、地域との交流が始まりました。バス停のごみを拾う活動なども行い、地域の住民としての役割も担っています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中、生きがいを感じながら自立して生活できる暮らしを。」をホームの理念として掲げています。特に管理者は、「一人ひとりの生活の質を大切にし、ホームと家族と地域が共に支えていきたい」と利用者と生活を共にする視点を重視しています。	○	地域の施設の役割なども明文化されることが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、業務を優先するのではなく、一人ひとりの利用者に寄り添いながら、共に生活する視点で日々取り組んでいます。利用者の笑顔や会話から、その成果が少しずつかたちとなり、職員や利用者との関係が構築されていることがうかがえます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地元の小学校に利用者が昔の遊びを教えに行くことがきっかけとなり、小学生が遊びにくるようになりました。また、バス停の掃除やゴミ拾いをして地域の理解を図り、朝夕の散歩では100円市で野菜や果物を買う事もあります。地域の方が、育てた花を定期的にホームに届けてくれるなど、地域に受け入れられてきていることを実感しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、会議で報告し、自己評価を質の向上のために活用しています。前回の外部評価で示された会議録の確認サインや、服薬支援の改善、生活歴の情報収集等が改善されています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開始し、記録に残しています。会議は2ヶ月に1度の開催予定で、利用者、家族、地域包括支援センターの職員、自治会長、福祉委員などがメンバーとなっています。意見を聞き、地域との交流やサービス向上に向けての取り組みが始まりました。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回の予定で進められています。運営推進会議の要綱を作成し、規定に基づいた運営の実施が求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より、市主催の会議や介護相談員の会議に積極的に参加しています。また、市の担当者と連携をとり、運営についてわからないことがあれば相談しています。事故報告は、記録に残し迅速に報告をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ぼぷらん新聞」の発行や家族の面会時に利用者の状況を伝えています。利用者の写真をアルバムに整理し、家族来訪時や運営推進会議等で暮らしぶりを報告しています。金銭管理は行っていません。必要なものがあれば、事前に家族に確認し立替金で対応しています。領収書のコピーと共に報告を行い、家族から後日振り込まれるようになっています。	○	立て替え金は、レシートを残し毎月の利用料と共に請求していますが、支払後に家族が確認したことを示す署名押印と日付を書面で残すことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意向を聴取し、苦情は記録に残しています。開設後、管理者の交代があり、窓口が分かりにくいとの意見もありました。昨年着任した管理者は対応の体制を整え、家族との連携を図り、意見が表しやすい雰囲気作りに留意しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後2年間は、職員の異動や離職が続き家族からも不安や疑問が出されてきました。管理者は、認知症ケアにおける馴染みの関係の重要性を意識し、利用者に安心感を持ってもらうために努力をしています。職員の離職等も最小限に抑えるため、職員のメンタルケアにも配慮し、職員一人ひとりの意向を聞くように努めています。	○	職員交代時には、家族や利用者に不安を与えないような引継ぎや、家族への報告の工夫が求められます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修、法人内研修を合わせて「認知症」「感染症」「緊急時対応」などの内容を含む年6回以上の研修に参加しています。職員も積極的に研修に参加し、記録に残しています。新人研修は4月に3週間、リーダー研修は毎月実施しています。職員は向上心があり、スタッフ室にある認知症の本や月刊誌を購読しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の見学は自由で、1ヶ月の体験入居も可能です。入居が困難な利用者には、デイサービスの利用から段階を踏んで、安心して入居できるような取り組みを実施しています。また、入居後の利用者が、生活に慣れるまで家族に頻回な訪問を依頼するなどの働きかけを行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、食事の準備や後片付け、来訪者の接待など、自然に役割を受け持ち、役に立つことの喜びを実感しています。職員は、利用者から教わることも多く、一方的な支援ではなく、生活を共に楽しむ様子が伺えます。利用者と職員との会話や表情からも、お互いの信頼関係や和やかな生活場面が見られました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込があると訪問面接を行い、家族構成、生活状況、性格、身体情報、医療情報を収集し、センター方式によりアセスメントを行っています。介護計画には、利用者や家族の意向、生活歴が詳細に記入されています。マージャンの好きな方のために家族の協力を得て、マージャンの時間を提供したり、金銭管理を希望する方には、家族と調整を行いプランに組み込み支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族と話し合いを行った上で作成し、家族の同意のサインを得ています。カンファレンスやミーティングで話し合い、情報を共有し、「できる事」「できない事」が整理されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況変化に合わせた見直しの実施や変化がない場合でも6ヶ月に1回の定期的な見直しを行っています。家族からの要望で、計画の見直しが行われることもあります。	○	介護計画を見直す際にはモニタリングが欠かせないものとなっています。ケアプラン実施表は記録されていますが、毎日の介護記録が介護計画の項目にそった記録ではなく、モニタリングの根拠となるような介護記録の書き方が求められます。また介護計画の見直しの際には新たなアセスメントが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	併設施設のリハビリ参加や喫 茶店の利用など柔軟に対応し ています。費用負担はありま すが、利用者、家族の要望に 応じて、必要時病院などの代 替サービスをしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前の受診状況を把握し、 利用者や家族の希望に添った 受診支援を行なっています。必 要に応じて提携医療機関の紹 介もしています。2週間に1回 、内科の往診もあり、必要時 の相談体制が整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびに かかりつけ医等と繰り返し話し 合い、全員で方針を共有してい る	グループホーム入居時に、利 用者の重度化の状況に応じて 、ホームでのケアが困難と感 じた場合は、併設特養への入居 等を含めた対応をすることを説 明しています。また、必要に 応じて医師との話し合いを行 っています。	○	今後は、重度化や終末期の対 応指針を作成し、それに基づ いて、利用者や家族への説明 が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については、身体拘束の問題と共に、学習会や委員会を設置し積極的に取り組んでいます。職員は、プライバシーに配慮して排泄時の声かけを行っています。また個人情報の保護、個人情報の管理方法について重要事項に記載しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの起床時間に合わせた、食事の提供や夜間の入浴、行事の取り組みなど、利用者の持つペースや望まれることを大切に、ゆったりとした生活を送っています。花の水遣り、洗濯など利用者のできることを見極めながら対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、特養の厨房で作られていますが、汁物やご飯、カレー、ハヤシライス、おでん、お寿司、おやつなどはホームで作っています。100円市で野菜を購入し漬物を作ることもあります。また食事の際の事前準備、器への盛り付け、配膳、食器洗い、テーブル拭きなど、できる範囲で利用者も関わっています。介助の必要な利用者に対しては職員も共に食べながら、さり気ない支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は週3回ですが、自由に毎日でも入浴できます。お風呂嫌いの利用者にも、いろいろな方法で働きかけ入浴を促しています。職員と一緒に入浴することで安心し、習慣付いた方もいます。生活習慣から夜間の入浴をしている利用者もいます。マンツーマンの対応で、基本は同性介助です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、利用者の得意なことを引き出しています。詩吟や習字、コーラス、マージャンなどのクラブ活動もボランティアの協力を得て、積極的に取り入れ、楽しみや気晴らしの支援をしています。社交ダンスに参加することもあり、ピアノを弾くために実家に楽譜をとりに行った利用者もいます。自立度の高い方も多く、今後も日常生活の中で一人ひとりが、役割や張り合いなどをもち、生きがいを感じる取り組みを期待いたします。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別外食や西宮甲東梅林などの行事での外出や毎日の近隣への散歩など積極的に出かける機会を作っています。隣接特養の喫茶へ出かける方もいます。今後は、外出を好まれない方でも、もう少し戸外に出る機会が増えるような働きかけをすることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	異食行為がある利用者や離脱願望の強い利用者があり、安全面から施錠しています。	○	施錠することの利用者への心理面等を職員は再認識し、家族と話し合い安全面を確保しながら、鍵をかけない工夫が求められます。利用者一人ひとりの外出のくせや傾向が把握できているようなので、職員の体制が整っている時間帯からでも、鍵をかけないことをはじめられてはいかがでしょうか。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年2回の消防署との避難訓練も実施しています。夜間想定避難訓練も今後は期待されます。非常口は、暗証番号での開錠になっています。非常災害時における食糧などの備蓄が準備されていません。	○	災害時の非常食料や備品についての備蓄が求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は、特養の管理栄養士がバランスを考えて栄養管理を行っています。利用者の食事摂取量や水分摂取量を記録しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングは天井が高く、明るくゆったりした空間となっています。窓から四季折々の景色を楽しむことができます。大きなガラス窓は、カーテンで陽射しを調整しています。食堂のテーブル、リビングの角にソファなど思い思いに過ごせる空間を提供し、室内の装飾や玄関周りの草花、植え込みも季節を感じさせます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、明るく広く収納スペースもあり、洗面台、ベッドが備え付けてあります。家具は、自由に持ち込むことが可能で、使い慣れた家具、装飾品、ちゃぶ台、テレビ等を自由に持ち込み、利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせた部屋作りがされています。		